

●シリーズ●わが町の文化財へ63

世羅町指定重要文化財 絹本著色如来荒神像

昭和59年5月15日指定

この画像は、縦60cm、横30.5cmで、絹地に描かれた画像です。また、表装裏書に「空海尊容の御自画筆」とあり、真言宗の祖師弘法大師空海が自ら描いたとする後世の記述があります。如来荒神（子嶋荒神）は、仏典中にこれを説くものではなく、神仏習合思想により生まれた仏とされています。

画面の痛みが少なく、衣文等に截金が施されています。制作年代は室町時代を下らないものと考えられています。

【截金とは】
金箔を切り、張り合わせて仏像等を装飾する技術です。平安時代に中国から日本に到来し、その後日本独特の発展を遂げました。



●シリーズ●わが町の文化財へ64

世羅町指定天然記念物 フジ

平成16年4月16日指定

このフジは、この種の樹木としては巨樹で樹高約15m、根廻り周囲2.6m・胸高幹囲1.85m、樹幹は途中から枝分れし、隣接するアラカシの樹にからまり、枝先はその尖端近くまでのぼっています。幹の太さから推定樹齢は約30年とされています。日本のフジ属には2種あり、フジとヤマフジが山地に自生している例がよく見られますが、いずれも落葉藤木で、フジはつるが右巻きです。花は5月頃開花し、花序（花房）は長く下垂します。

本州、四国、九州に広く分布し、観賞用に庭や藤園などに植え園芸品種も多くあります。これに對してヤマフジはつるが左巻き、花序はフジに比べて短く、少し早く咲きます。この付近の山地には両種が混在しています。

